

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町大字神田4611-2		
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果市町受理日	平成26年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを自然に囲まれ、四季折々の花を楽しみながら、のんびりとした静かな環境の中で生活しています。運営推進委員さんを中心に地域の方々にご協力いただき、また、夜間には地域の方がお泊りボランティアとしてホームに泊まっていたりしているという、地域の方々に支えられているホームです。利用者と職員が、お互いを支え合いながら、日々楽しく生活を送っています。猫の「タマちゃん」が開所以来、同居して利用者と職員の心のケアをしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修の情報を職員に伝えられ、経験や希望に応じて参加の機会を提供しておられ、今年度は年2名ずつ年6回受講しておられます。受講後は復命や資料の閲覧で全職員が共有しておられます。管理者研修(年8回)や接遇研修(年1回)などの法人研修への参加の他、内部研修は年間計画を立てられ月1回実施されています。山口県在宅老所・グループホーム協会の研修や北浦ブロックの研修会にも参加されて、同業者と一緒に学ばれたり交流しておられるなど、職員が研修を受ける機会の確保や働きながら学べるように取り組まれています。消防署の協力を得て実施しておられる火災避難訓練(年1回)や災害時避難訓練(年1回)には運営推進会議のメンバーや地域の人が参加しておられ、誘導や見守りなどの役割をされて協力しておられます。緊急連絡網に運営推進会議メンバーやボランティアが加入しておられ、訓練への参加や事業所の災害時対策に関する理解終えられているなど、地域との協力体制を築いておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティング時に唱和し、理念に沿ったケアを目指している。ケア会議時にも、理念を振り返るよう話している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。ケア会議や日常業務の中で理念について話し合いをして共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃作業や八幡宮の祭りに利用者と共に参加している。また、近所の方から野菜や魚の差し入れをいただいたり、地域の一員として日常的に交流している。地域版のホーム便りを発行し、地元自治会に回覧している。	自治会に加入し、地域版事業所だよりを回覧している。年5回の地域の草取りや溝掃除に職員が参加している他、空缶拾いにも参加している。利用者と一緒に地域の八幡宮の春秋の祭りや文化祭に出かけている。事業所の七夕祭りや秋祭りには地域の人や保育園児の来訪があり、交流している。年10回の「タマちゃん喫茶」には毎回2、3人の地域の方の参加があり、利用者と交流している。畑づくりやハーモニカ演奏、清掃、お泊りのボランティアの来訪がある他、年1回の大学生の実習の受け入れをしている。魚や野菜の差し入れ、散歩時や買い物時に地域の人達と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所主催の秋祭り、「タマちゃん喫茶」等で共に過ごすことで、認知症の人の理解を深めていただいている。また、利用者徘徊初動捜索模擬訓練を通して、認知症の支援の方法等を学ぶ機会を設けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組んでいる。内部研修にて評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について説明し、全職員が自己評価をするための書類に記入した後に、内部研修として話し合い、管理者がまとめている。職員は日々のケアの振り返りと捉えている。前回の評価を受けて、救急救命法やAEDの使用訓練を実施しているなど、応急手当や初期対応の訓練に取り組むよう改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、施設の現況報告や災害時の対策等話合っている。また、会議で出た意見から、今年度初めて、利用者徘徊初動捜索模擬訓練を行った。	新たに地域協力員2名の参加を得て、年6回開催している。利用者の現状報告、行事予定と報告、緊急連絡網、職員体制状況、ボランティアの活動状況などを報告し、話し合いをしている。メンバーより緊急時用の利用者一覧表の作成についての提案があり、メンバーや漁業組合などの協力を得て、「利用者徘徊初動捜索模擬訓練」を実施し、家族に了解を求める話し合いをしているなど、そこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	・議題の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加だけでなく、日頃から市町担当課へ出向いたり、電話などで相談や情報交換をしている。また、内部研修の講師を依頼する等、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当課とは、運営推進会議の他、介護保険更新手続きや介護保険改正時の不明な点について出向いて聞いたり、電話でも災害時の山崩れなどについての相談や情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、内部研修の講師の依頼や不明なことがあれば相談して助言を得たり、情報交換など、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、職員間で「身体拘束をしないケア」について話し合い、実践している。	年1回、身体拘束の内部研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、利用者が外出しそうな時には、言葉かけの工夫をし職員が一緒について出かけている。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修で学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で、職員同士が意識し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者で活用している方がおられることもあり、内部研修で学び、職員全員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改訂の際には、家族に十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時、電話などで意見や要望を聴き、気づき箱も設置している。苦情の受付や処理手続きは、速やかに行われるよう体制を整えている。	相談、苦情受付体制や第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。気づき箱も設置している。運営推進会議や面会時、電話で意見や要望を聞いている。年3回の家族会(1回は個別面談)時にも聞いている。運営に関しての意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議やミーティング時に意見や提案を聞く機会を設けている。また、事業所全体では、年に1回アンケートを実施し、機会を設けている。	月1回のケア会議や毎朝のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。他、管理者は日常業務の中でも聞いている。法人で年1回アンケートを実施し、職員の体制、待遇などで意見や提案を聞く機会を設けている。利用者の安全面に配慮した肘掛け椅子の購入や夜間に災害が発生した場合、避難するのに外灯がないと危険であるとの意見があり、外灯を設置するなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備が少しずつだが、改善しつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、勤務の一環として交代で参加し、他の職員には復命の機会を設け、内容を共有している。内部研修は月1回開催し、なるべく全職員が参加できるようにしている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後はケア会議時に復命し、資料は閲覧できるようにしている。今年度は2名ずつ6回受講している。法人研修は年1回の接遇研修と年8回の管理者研修を実施している他、市社協支所研修として年1回、高齢者虐待について実施している。内部研修は年間計画を作成し、月1回1時間程度、認知症、プライバシー保護、身体拘束などのテーマに基づいて実施し、欠席者には資料を回覧している山口県宅老所・グループホーム協会の研修や北浦ブロックの研修会にも参加している。新人職員は法人で1回の研修を受け、その後は日々の業務の中で管理者が指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会の研修や勉強会への参加、また、地域ケア会議への参加等で、サービスの質の向上を目指す取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人と面会しゆっくりと話をする機会を設け、安心して生活を送るための信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ホームに見学に来られた際や面会時に、要望や不安なこと等しっかりと確認し、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族とよく話し合い、必要に応じて、他のサービスの紹介もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者として、喜怒哀楽を共有し、食事作りや野菜作り等、教わりながら支え合っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や秋祭り等の行事に参加していただく中で、職員は、本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺参りや友人宅への訪問、馴染みの店での買い物等、本人が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	友人、知人、親戚の人の来訪がある他、デイサービスの知人との交流や寺参り、親しい友人宅の訪問、馴染みの店での買い物、自宅周辺のドライブなどの支援をしている。家族の協力を得ての外出、外食、法事への参加など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが関わり合い、支え合えるよう、職員はさりげなく支援するよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、広報を送ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言葉や行動から思いや意向を把握するよう努めている。また、センター方式を利用しアセスメントをしている。家族からも情報収集し、困難な場合は、それらを踏まえ本人本位に検討している。	入居時のアセスメントや本人や家族からの情報をセンター方式のシートに記録している。他、日々のケアの中での利用者との会話や表情などの気づいたことを介護記録や業務日誌に記載し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞き取りやセンター方式に記入してもらったり、入所前に利用していたサービス機関に情報を求めている。それらや、日々の関わりの中で得た情報を、ケア会議等で職員全員で共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やバイタル、排泄チェック表などで、心身の状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を反映し、本人がより良く暮らせるために、職員全員で意見を出し合い本人の「今」を大切に、介護計画を作成している。	計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に月1回のカンファレンスを開催し、家族、主治医、職員等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状況の変化があればその都度モニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートをベースに、介護計画に沿った個別記録様式に記録し、実践や気づきがわかりやすいようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援やその時々生まれるニーズに対応できるよう、柔軟な支援ができるよう、職員配置等に工夫している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の女性部が主催している「木目込み教室」に参加したり、ボランティアの方々との交流を持つなど、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医の往診や受診の支援をしている。	本人や家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めている。協力医療機関をかかりつけ医にしている利用者は月1～2回の訪問診療と体調不良時の往診や通院の支援をしている。受診時には「往診、通院連絡記録表」で情報提供している。以前からのかかりつけ医には、他科受診も含め、家族の協力を得て支援をしている。受診結果や薬の変更については、面会時や電話で共有している。緊急時には協力医療機関等に電話で指示を受けて対応しているなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、こまめに主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、地域医療連携室との相談や情報交換を密にし、利用者が安心してスムーズに治療やサービスを受けられるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針については、入所時や家族会、また必要時に、その都度説明し、共有していただいている。	契約時に事業所できる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い時期から家族、主治医、職員等、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関わりの中での気づきを、ヒヤリハット報告書に記録し、それについての対策を検討し、職員全員で事故防止に取り組んでいる。急変時の対応や応急手当については、消防署の協力のもと、訓練を重ねているが、実践力が身につくまでは至っていない。	事故が発生した場合は、その場の職員で対応策について話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録して、翌朝のミーティングで報告して全職員で共有している。月1回のヒヤリハット検討会で再検討や確認をし、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応について学んでいる他、年2回消防署の協力を得て、心肺蘇生法とAEDの使用訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員やお泊りボランティアの参加を得ての合同避難訓練や緊急連絡網等で協力体制を築いている。また、職員全員が避難方法を身につけることができるよう、自主避難訓練(夜間火災を想定した)を積極的に実施している。	消防署の協力を得て、年1回の火災時の夜間想定訓練と、年1回の地震や水害等の災害避難訓練を運営推進会議のメンバーや地域の人々の参加を得て実施している。メンバー等には誘導や見守りなどの役割を依頼している。年3回事業所独自で夜間想定火災時の避難訓練を実施し、避難誘導や通報、消火訓練を利用者と一緒に行っている。災害時の地域緊急連絡網に運営推進会議メンバー10人とお泊りボランティア2名の加入があり、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等で学習を重ね、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、その人に合った言葉かけや対応をしている。	法人の接遇研修を受講している他、内部研修でプライバシーの確保について学び、職員は理解して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応をしている場合は、管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。個人情報の保護や守秘義務について、職員は理解している他、ボランティアにも説明して理解を得ている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の働きかけで、自分の思いや希望を表出し、自己決定できるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースや思いを大切にし、その人らしい生活が送れるよう、希望に沿えるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを大切にし、希望するヘアスタイルやお化粧ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを取り入れてのメニューの決定や、調理、盛り付け、配膳、片付け等、その中で利用者ができることを一緒にしている。	朝食と夕食、週2回の昼食を事業所で作り、その他は、外部委託の配食を利用している。漁協からの差し入れの魚や事業所の畑でできた野菜を使って一品をつくっている。利用者は職員と一緒に下ごしらえ、下膳、後片付けなどできることをしている。利用者は、弁当持参の職員と同じ食卓を囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、節分、クリスマス会など)や手づくり弁当持参の外出、おやつづくり(おはぎ、ホットケーキ、誕生日のケーキづくりなど)、家族会での年1回の食事会、外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量は、個別に記録しチェックしている。一人ひとりの状態や好みに合わせ、食事の形態を考えている。(刻み、とろみ剤の使用等)		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、就寝前には、義歯を預かり消毒し、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンや排泄サインを把握し、声かけや誘導にて、トイレでの排泄支援をしている。	排泄チェック表を活用して、パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、麦ごはんや繊維質が多い食材を多めに取り入れるよう心掛けている。また、日々の生活の中で、散歩や軽い運動、体操ができる時間を持つよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	通常、午後に入浴を行なっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々に応じた柔軟な対応ができるよう心掛けている。また、入浴剤や柚子湯等で入浴を楽しめる工夫をしたり、日帰り温泉旅行なども行っている。	入浴は、毎日13時30分から15時30分まで間可能で、利用者が希望する時間にゆっくりと入浴できるよう支援している。体調に応じてのシャワー浴、部分浴、足浴、清拭の支援や入浴剤やゆず湯など、入浴を楽しめる支援もしている。入浴をしたくない人には職員の交代や時間の変更、声かけの工夫などを行っている。家族の協力を得ての温泉入浴など、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況やその方のリズムに合わせて、休息支援をしている。また、安眠できるよう寝具の衛生面にも気をつけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や用法・用量について理解している。ミーティング時等に症状の変化の確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の大正琴や生け花、包丁研ぎ、また、オセロやカルタ取りのゲーム等、日々の生活の中で、好まれることができるよう、活躍の場面作りや気分転換の支援をしている。	畑の草取り、野菜の収穫、花壇の水遣り、山野草採り、魚をさばく、下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ハンカチたたみ、木目込み貼り絵、ぬり絵、歌を歌う、テレビ視聴、カラオケ、カルタ、風船バレー、生け花、通販カタログでの注文、うちわづくり、季節の行事(餅つき、豆まき、雛祭り、七夕、忘年会など)への参加、タマちゃん喫茶での交流、保育園児との交流、ハーモニカ演奏など活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って、近所の散歩や買い物、ドライブ等、個別対応に努めている。また、家族の協力を得て、法事や梨狩り、日帰り旅行等にも出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、地域の八幡宮の春秋祭り、文化祭、中学校でのジャズコンサート、生涯学習センターでの木目込み教室や生け花作品展覧会の見学、寺参り、お薬師様参り、初詣、花見(桜、菖蒲)、梨狩り、ドライブ(自宅周辺、角島、道の駅など)、家族会行事の日帰り旅行(海響館、温泉センター)などの他、家族の協力を得ての外出、外食、法事への参加、温泉など戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分でお金を所持されている方はおられない。ホームでの預り金の中から、家族に了解を得て、希望に応じて買い物ができるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用できる体制をとっている。手紙のやり取りをされる方は、現在おられない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、花や野菜が窓越しに観賞できるよう、花壇や畑の整備を利用者と共に行い、生活感や季節感を大切にした居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	玄関やリビングには季節の花が活けてある。リビングの吹き出し窓からウッドデッキにでると畑の野菜や花壇の花、裏山が間近かに見え、季節を感じるができる。廊下には行事の写真や利用者の木目込み貼り絵の作品が飾ってある。玄関には長椅子、廊下にはソファや窓際の作り付けの椅子が配置しており、利用者の居場所となっている。温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の所々にソファや椅子を配置し、一人で過ごしたり、気の合う者同士で過ごしたりできるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいただいたり、本人や家族の写真を貼ったりして、本人が居心地良く、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	タンス、テレビ、ミニ机、椅子、衣装ケース、衣裳掛け、時計、カタログなどを持ち込み、造花、生け花、家族の写真、利用者自身が描いた絵、ぬり絵の作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁や戸に、場所や矢印を書いて貼ったり、居室入口に本人の名前や顔写真を貼るなどの工夫をし、一人ひとりが安全に自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 下関市社協 グループホームしまど

作成日：平成 26年 12月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員全員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるまでには至っていない。	実践力を身に付ける努力をする	・初期対応のマニュアルを作成し、定期的な訓練を行う。月1回のケア会議時に職員が交代で講師をし、対応の仕方を身につける。	1年
2	5	運営推進会議の議題の工夫	会議での発言の活発化を図り、マンネリにならないようにする	会議での発言が活発になるような雰囲気作りや働きかけを積極的に行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。